



第2回の検討委員会では、保護者や地域関係者として小学校に関わるだけではわからない、児童数が少ないことにより実際の学校運営に見られる傾向や、南北中学校統合後の鞍手中学校の現在の状況等について事務局から説明をしました。次回検討委員会では町内の小学校と中学校の現地視察を計画しています。

○ 小規模・過小規模校（※）の学校運営に見られる傾向

小学校で勤務する教職員は、その学校の児童数に応じて配置され、児童数が少ないと配置される教職員の数も少なくなります。教職員数が少ない場合、学校運営に以下のような傾向があります。

- ・全教職員の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密にできる。
- ・他の教職員に迷惑をかけることを気遣い、年休が取りづらいので無理をする。
- ・標準規模の学校と同じ回数出張・研修等があるので一人の教職員の負担が大きい。
- ・教職員が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスの取れた配置ができない。
- ・学校が一体となって活動しやすい。
- ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生活指導等についての相談・研究・切磋琢磨が行いにくい。
- ・一人に多数の校務分掌が集中しやすく、後輩を育てる時間が確保しにくい。
- ・教頭が配置されないため、他の教職員がその仕事を分担する。(過小規模校)
- ・家庭や地域との連携がとりやすい。



※小規模校 … 学校全体の学級数が6～11学級
※過小規模校 … 学校全体の学級数が5学級以下

剣南小・剣北小・古月小・西川小・新延小学校が該当
室木小学校が該当

○ 鞍手町の少人数校（1学級の児童数が概ね20人未満）の児童に見られる傾向

町内の6小学校の内、各学級の児童数が概ね30人前後となる剣南・剣北小学校を「多人数校」、概ね20人以下となる新延・古月・西川・室木小学校を「少人数校」として考え、今年の全国学力・学習状況調査の正答率を度数分布で比較してみると、多人数校だから・少人数校だから成績が良い、悪いといった傾向は見られませんでした。

また、少人数校の児童が中学校に入学後に見られる傾向として、小学校で手厚く指導されており基礎学力がある一方で、先生を頼りにし自主的な学習になると集中できない傾向が見られます。

～ 検討委員会アドバイザー（学識経験者）からのひとこと ～

小さな集団で足りないものを補い助け合いながら成長することもある。大きな集団で切磋琢磨することで成長することもある。子どもたちや、そこで働く先生にとって、学校規模が大きい方が良いのか小さい方が良いのか、それには一長一短があり一概に答えがあるものではありません。
鞍手町の子どもたちにとって、何が最適な教育環境なのか、これから議論を深めていく必要があります。



検討委員会では、専門的見地からの助言をいただくため、学識経験者にアドバイザーとして参画いただいています。



発行責任・編集

鞍手町教育委員会 教育課教育環境整備係

E-mail : gakkoukankyuu@town.kurate.lg.jp

この便りは、町のホームページに掲載しています。

Tel 0949 - 42 - 7202

Fax 0949 - 42 - 0149

<https://www.town.kurate.lg.jp>

